

課題1 次の文章を読んで、あとの(1)から(4)に答えましょう。

見えない人がスポーツをする際にも、イメージが大きな力を持つ場合があります。
葭原さんが二十二歳で見えにくくなって最初にやったスポーツは、陸上の走り高跳びでした。一瞬ごとに変化する状況に應じるサーフィンのようなスポーツと違って、走り高跳びの場合は、自分がどのように跳ぶか、そのイメージのバーを跳ぶのです。いわゆる「イメージトレーニング」のようなもの、環境だけでなく自分の動きを含めたイメージの中に没入するのです。

具体的には、とくに助走のイメージが重要です。見える人の場合、ジャンプの成否を決める要因の中で助走が占める割合は六割と言われます。ところが見えない人になると、これが八割九割になる。しかも歩数が短く二、三步程度しかありません。葭原さんは少し見えていたのでもっと長い距離を助走していましたが、全盲だと長くても五歩程度だとい

います。
この数歩をどのようにこなしたらいいか。ベストなフォームをひたすら筋肉に覚え込ませるのです。助走の動きを*5シミュレーションしてそのとおり動けるようにすることが、見えない人にとっての走り高跳びの練習です。「バーを跳ぶ」という目標に向かうのではなく、その過程での体の動きを作る。それはどこかダンスにも似ています。完璧なダンスが踊れると、その結果としてバーがクリアできるわけです。

もちろん、スポーツは勝負事です。パスするかどうかの駆け引きなど現場で対応しなければならぬ要素もあります。しかし、「跳ぶ」という肝心の行為に関しては、頭の中にあらかじめ作ったイメージに徹底的に集中することが重要です。恐怖心は、対応できない偶発事が起こるかもしれないというネガティブな予期から生まれます。偶発事を排除した揺るがないイメージに没入することができれば、恐怖心は生まれません。

こうしたイメージへの没入は、見えない人の方がかえって得意とすることかもしれません。視覚がないぶん、不必要な情報に振り回されることがないからです。広瀬さんは、こうした集中力の高さは、武道においても役立ったといえます。たとえば居合道では、頭の中にイメージした敵に向かって、刀を振り下ろします。イメージされたものに体を合わせていく力は、見えない人の方が強いのもかもしれません。

障害と無関係な人はいません。誰しも必ず年をとります。年をとれば、視力が落ちる、耳が遠くなる、膝が痛む……等々、多かれ少なかれ障害を抱えた身体になるからです。

日本はこれから、どの国も経験したことのないような*6超高齢化社会に突入します。さまざまな障害を持った人が、さまざまな体を駆使してひとつの社会をつくりあげていく時代。つまり高齢化社会になるとは、身体多様化の時代を迎えるということでもあります。医療技術や工学技術の発展も、この多様化を加速する要因でしょう。

そうすると、人と人が理解しあうために、相手の体のあり方を知ることが不可欠になってくるでしょう。異なる民族の人がコミュニケーションをとるのに、その背景にある文化や歴史を知る必要があるように、これからは、相手がどのような体を持っているのか想像できることが必要になってくるのです。

(伊藤亜紗著 『目の見えない人は世界をどう見ているのか』から)

- *1 没入・・・一つのことに集中すること。
- *2 成否・・・成功するかしないか。
- *3 全盲・・・両目の視力を失った状態のこと。
- *4 フォーム・・・スポーツなどの動きの姿勢のこと。
- *5 シミュレーション・・・実際の動きをまねて、同じように行うこと。
- *6 パス・・・走り高跳びで自分の順番を飛ばすこと。
- *7 偶発事・・・偶然に起こったこと。
- *8 ネガティブ・・・否定的なさま。
- *9 超高齢化社会・・・総人口のうち、高齢者の割合が非常に高くなっている社会のこと。

(1) 「想像」は「そっぞう」と読みますが、同じ読み方で別の漢字を使った熟語に「創造」があります。「このように、別の漢字を使いながら、同じ読み方をする熟語を二つ考え、それぞれの熟語を使って文を作りましょう。」「感心」と「関心」のように、一字違いの熟語でもかまいません。ただし、「想像」「創造」「感心」「関心」を使ってはいけません。

熟語	文
※	



- (2) — 「自分がどのように跳ぶか、そのイメージを事前に完全につけておき」とありますが、そうすることで跳ぶときにどんな良いことがあると筆者は考えていますか。五十字以内で書きましょう。(、や。や「なども一字に数えます。)

50 字

(3) —「見えない人」とありますが、私たちの社会には、目の見えない人や見えにくい人にとって助けになるものや工夫がたくさんあります。点字ブロックやめがねは、その代表的なものです。この他に、あなたの身の回りにあるものや工夫を一つ挙げて、どのように目の見えない人や見えにくい人の助けになっているかを説明しましょう。

- (4) — ウ「日本はこれから、どの国も経験したことのないような超高齢化社会に突入します」とありますが、超高齢化社会では、どのようにすることが求められていると筆者は考えていますか。なぜそう考えているのかもふくめて、解答らんの外のことに合うように六十字以内で書きましよう。(、や。や。「なども一字に数えます。)

ことが求められていると考えている。

60 字

課題2 倉敷天城中学校では、「幅広い知識と国際感覚を身に付け、国際社会で活躍できる知的バランスのとれた生徒の育成」
はば やく

を目指しています。国際社会で活躍するために最も必要だとあなたが考えることを一つ挙げ、そう考える理由をふくめて二百字以内で書きましょう。(、や や 「」なども一字に数えます。段落分けはしなくてよい。一マス目から書き始めましょう。)

2✖

200 字

100 字